

人権教育だより『ひだまり』

第3号

島根県立江津高校 人権教育担当

島根県立江津工業高校 人権教育担当

令和4年10月5日（水）発行

前号でもお知らせしましたが、今年度から江津高校と合同で人権教育だよりを発行することになりました。今回は9月におこなわれた、江津高校の学園祭の様子をお伝えします。同じ江津市内にありながら、なかなか他校の様子がわかりにくかったりするかと思います。まわりの動きにもちょっと目を向けてみましょう。

江津工業高校もいよいよ学園祭目前！文化祭や学園祭のさまざまな場面で、ひとりひとりが自分の役割をやり遂げましょう。必ずしも目立つことが得意じゃなくても、何かあなたの力が発揮できることがあるかもしれません！それぞれの持っている力を出し合って、つくりあげていく楽しさを味わってくださいね！！



今年の江高祭……完！ 江高祭…江津高校学園祭

江津高校の学園祭（江高祭）が終わりました。江高祭は文化祭2日間、体育祭を1日で行いました。その準備期間はとても慌ただしく忙しい毎日だったのではないのでしょうか。よく言われることですが「慌」という字は心（りっしんべん）が荒れると書きます。「忙」という字は、心が亡くなると書きます。慌ただしく、忙しいと感じると、人間は弱いもので、字のごとく心が荒れ、心を亡くしていくことが多いのです。そうすると、いい加減な言動が多くなり、周りを気遣う余裕がなくなり、知らず知らずの内に周りの人を傷つけてしまうことがあります。もしかしたら準備期間中、そのようなことがあったり、見たりした人がいたかもしれません。

慌ただしく忙しい時こそ、心を落ち着かせ、周りをよく見て、自分の発する言葉、ちょっとした行動を考えたいものです。どんな時でも思いやりをもって生活できるとよいですね。

準備期間も合わせると2週間に及ぶ学園祭でしたが、自主的に行動する大切さや他者と協働することの意味や難しさを実感したことでしょう。今回の経験もこれからに生かしてくださいね。

《江津高校文化祭レポート》

【文化祭1日目】江津高校校舎内：クラス企画・部活動、委員会発表・展示企画等

1日目は校舎内で様々な企画が開催されました。各クラス企画では縁日の開催や、お化け屋敷、クレープの販売などを行いました。また、部活動や委員会、総合的な探究グループ単位で展示や販売、体験活動等を行いました。準備期間から各団体で試行錯誤し、当日は楽しそうな笑顔がたくさん見られました。



【文化祭2日目】ミルキーウェイホールステージ：クラス発表・部活動発表・有志発表・人権教育講演会

2日目はミルキーウェイホールステージで様々な発表が行われました。クラス発表では動画や劇の発表がありました。その他に書道パフォーマンス、ダンス、神楽公演、吹奏楽演奏、人権教育講演会が行われました。工夫を凝らした発表で会場は温かい雰囲気になっていました。「性の多様性について」というテーマで行われた人権教育講演会では、実体験を交えたお話をしていただきました。



【体育祭】江津高校グラウンド：リレー・応援合戦

体育祭は荒天のため、種目や日程を短縮して行われました。競技種目はリレーのみでしたが自分の所属する分団のために一生懸命に走る姿が見られました。また、3年生主体で準備を重ねてきた応援合戦は大雨に降られながらでしたが、素晴らしい演技を見せてくれました。



小さい勇氣こそ

東井義雄

人生の大あらしがやってきたとき
それがへっちゃらで乗りこえられるような
大きい勇氣もほしいにはほしいが、
わたしは
小さい勇氣こそ ほしい

わたしのたいせつな仕事をあと回しにさせ
忘れさせようとする小さい悪魔が、
テレビのスリルドラマやまん画に化けて
わたしをゆうわくするとき、
すぐそれがやっつけられるくらいの
小さい勇氣でいいから
わたしは それがほしい。
もう五分くらいねてたっていいじゃないか
けさは寒いんだよと、
あたにかいねどの中にひそみこんで、
わたしにささやきかける小さい悪魔を
すぐやっつけてしまえるくらいの
小さい勇氣こそほしい。
明日があるじゃないか
明日やればいいではないか、
今夜は もうねろよと、
机の下からささやきかける小さい悪魔を、
すぐやっつけてしまえるくらいの
小さい勇氣こそほしい。

紙くずがおちているのを見つけたときは、
気がつかなかったというふりをして
さっさと引っさまえよ。
かぜひきの鼻紙かもしれないよ。
不潔じゃないかと呼びかける小さい悪魔を
すぐやっつけてしまえるくらいの
小さい勇氣こそ
わたしは ほしい。

どんな苦難ものりきれる
大きい勇氣もほしいにはほしいが、
毎日 小出しにして使える
小さい勇氣でいいから、
それが
わたしは たくさん ほしい。

それに
そういう小さい勇氣を軽べつしては
いざというときの大きい勇氣も
つかめないのではないだろうか。

次号は江津工業高校の行事の紹介を
予定しております。